ドリーム剣友会創立二十周年記念誌 写真集

ドリーム剣友会
創立二十周年記念誌

剣心

戸塚区剣道連盟

ドリーム剣友会

平成９年７月

発刊にあたって

ドリーム剣友会
会 長　谷口　庄一

当会は，本年，創立２０周年を迎えました。２０年前に，ドリームハイツ内で剣道の指導を受けさせたいとの願望と意欲に燃えた初代役員方々のご努力により剣友会が創立され，創立当初から指導に当られた小島師範，諸先生，また陰になり日向になって運営に当たられた後援会役員の皆様方のご協力を得てここに２０周年を迎えられたことを心より感謝申し上げます。

この２０年間，既に有段者数は６４名となり延べで１１０余名となりました。これは先輩たちが「修業者心得」の中にある「師の教えに従い，真剣に稽古すること。」を実践した結果であります。心と身体を鍛えるのが私たちの剣道の目的であることは言うまでもありませんが，今日のドリーム剣友会が先輩各位の並々ならぬご尽力により築き上げられた礎の上にあることを剣友会会員は忘れてはなりません。

今般，２０周年記念誌を刊行するに至りましたのは，皆さん一人一人が，当会の足跡，先生方，先輩，後援会役員によって受け継がれてきた剣風，伝統を改めて振り返り，その中から貴重な教訓を学びとって頂き，更に未来へと発展していって欲しいと思うからであります。

私たちが，１０周年記念誌に引き続き，２０周年記念誌も発刊できたことは大変素晴らしいことであると思います。更なる発展を求めて会員の皆様とともに歩み始めることを祝って発刊の言葉といたします。

写 真 集（昭和６１年までの写真集は１０周年記念誌に掲載）

昭和６２年

ドリーム剣友会　創立１０周年記念大会（62. 5. 17）

大会本部席（62. 5. 17）

範士八段　中村伊三郎先生の挨拶
（62. 5. 17）

中学生による日本剣道形（62. 5. 17）

昭和６２年

豆まき（62. 2. 6）

三浦国際市民マラソン（62. 2. 11）

初心者稽古（62. 5. 31）

深沢大会（62. 6. 7）

大正大会女子の部準優勝（62. 11. 22）

吾妻山ハイキング（62. 6. 21）

昭和６３年

創立１１周年記念大会（63. 6. 5）

戸塚道場大会団体女子の部第３位（63. 3. 20）

戸塚区民剣道大会（63. 10. 16）

剣友会旗入魂式（63. 11. 13）

冬季大会・納会（63. 12. 18）

ドリーム剣友会　創立１２周年記念大会（元. 6. 4）

師範代による日本剣道形（元. 6. 4）

大会入賞者（元. 6. 4）

中学生による日本剣道形（元. 6. 4）

平成元年

飯島大会女子の部準優勝（元. 6. 18）

三渓園ハイキング（元. 6. 25）

初心者稽古（元. 12. 17）

江ノ島ハイキング（元. 11. 5）

平成２年

ドリーム剣友会創立１３周年記念大会（2. 6. 17）

初心者稽古（2. 4. 22）

平成２年

初心者稽古（2. 4. 22）

深沢大会準優勝（2. 6. 24）

三池公園ハイキング（2. 5. 27）

夏期合宿（2. 8. 4）

平成３年

指導者親睦旅行（シンガポール）（3. 9. 25～29）

平成３年

ドリーム剣友会　創立１４周年記念大会（3. 6. 2）

中学生による日本剣道形（3. 6. 2）

飯島道場大会女子の部準優勝（3. 6. 9）

スイカ割り（3. 7. 14）

平成３年

スイカ割り（3. 7. 14）

夏期合宿 ﾊｲｷﾝｸﾞﾏﾗｿﾝの準備運動（3. 8. 3）

夏期合宿（3. 8. 3）

夏期合宿（3. 8. 3）

平成４年

ドリーム剣友会創立１５周年記念大会（4. 6. 21）

終業式（4. 3. 24）

平成４年

本郷大会女子の部準優勝（4. 4. 12）

三段以下審査会（4. 4. 29）

小島師範　七段昇段で乾杯（4. 5. 19）

小島師範　七段昇段祝賀会（4. 5. 22）

戸塚区民剣道大会（4. 10. 4）
小島師範 日本剣道形を演ずる

県ドリームハイツファミリー運動会
（4. 10. 18）

平成５年

ドリーム剣友会　創立１６周年記念大会（5. 6. 20）

夏期合宿（5. 8. 7）
（御殿場　道場前）

夏期合宿（5. 8. 7）
（御殿場　御胎内）

指導者親睦旅行　松本（5. 10. 30）

平成５年

指導者親睦旅行　上高地（5. 10. 31）

大正大会中学生の部準優勝（5. 11. 23）

平成６年

深沢大会　鎌倉武道館（6. 6. 26）

深沢大会　鎌倉武道館（6. 6. 26）

夏期合宿　かぶと虫取り（6. 8. 7）

平成６年

夏期合宿　鹿島サッカー場　見学（6. 8. 8）

夏期合宿　鹿島神武殿（6. 8. 6～8）

夏期合宿　（6. 8. 7）

平成７年

飛桜館大会女子の部第３位（7. 3. 12）

初心者稽古（7. 4. 9）

平成７年

ドリーム剣友会　創立１８周年記念大会（7. 6. 18）

鎌倉ハイキング（7. 5. 27）

鎌倉ハイキング（7. 5. 27）

市ドリームハイツ文化祭（7. 11. 3）

平成８年

ドリーム剣友会　創立１９周年記念大会（8. 7. 14）

初心者入会式（8. 4. 9）

夏期合宿　御殿場（8. 5. 8）

金沢自然動物公園ハイキング（8. 5. 19）

平成８年

夏期合宿（8. 8. 5）

夏期合宿（8. 8. 5）

平成９年

悩める編集委員会（9. 1. 18）

三浦国際市民マラソン（9. 3. 2）

初心者稽古（9. 4. 27）

昇段祝賀会　北林五段（9.5.5）

二宮　吾妻山ハイキング（9.5.11）

尾瀬ヶ原ハイキング（9.6.7-8）

創立２０周年記念誌編集中の師範（9.5.25）

創立２０周年の歩み

ドリーム剣友会後援会
会 長　　谷口　庄一

ドリーム剣友会の発足から２０年，ここに２０周年記念大会を開催することが出来ましたことは，私の最大の喜びであり，光栄でもあります。これもひとえに，創立当初より限りなき剣道への愛情を持って，ご指導を頂いてきました小島師範をは

立当初より限りなき剣道への愛情を持って，ご指導を頂いてきました小島師範をはじめ，諸先生の協力や，後援会の皆様方のご支援によるものと，心から感謝を申し上げます。

北林前会長から私が会長として引継ぎましたのが１２周年目からです。急激に進む少子化の中で，如何に当会を「発展，存続」させていくかが，私に課せられた使命であると考えておりました。その使命も未だ十分とは言い難く，今後もこれを機に決意を新たにしております。

さて，今まで私が会長の大任をなんとかと果たしてきた中で，印象に残っている出来事を後援会からの思い出として，紹介いたします。

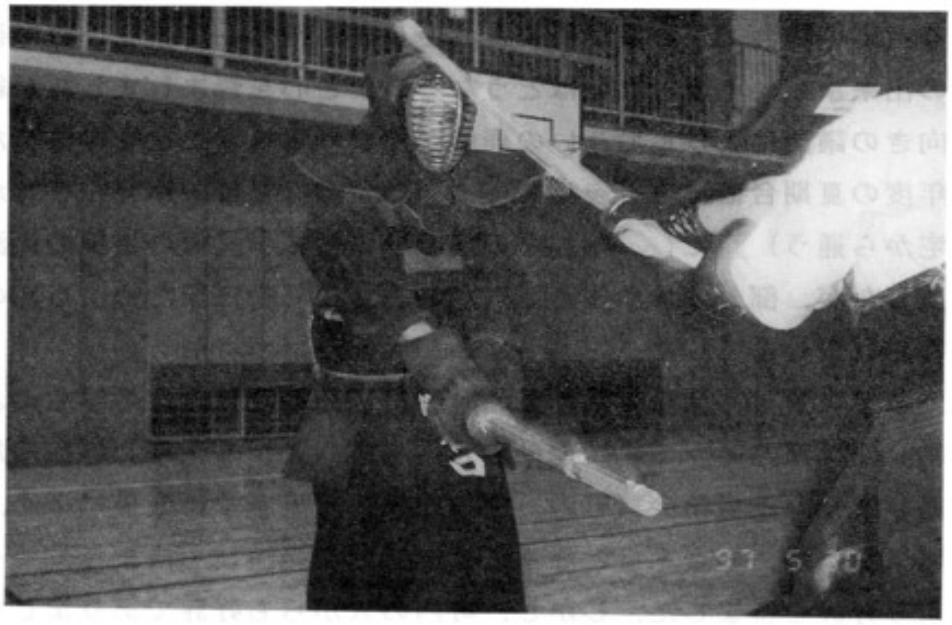
① 就任早々，定期総会で予算案が否決されてしまったことです。これは後援会始まって以来の出来事で，不慣れな私はどうなる事かと心を悩ましましたが結果的には会員の前向きの議論により，お互いの理解が深まり事なきことを得ました。

② 平成７年度の夏期合宿は方針を変えて「通い合宿（学校の体育館を３か日間借り切り，自宅から通う）」にし，参加率の向上と，後援会父母の負担の軽減を図るため実施しましたが，部分参加や体育館内があまりにも暑ったため，当初の考えていた成果が得られませんでした。

③ その他，剣道のＰＲ，会員募集を兼ね「春日神社の夏祭りに中学生による日本剣道形の奉納」，「県ハイツのミニ運動会」，「市ハイツ文化祭」等に参加し，模範演技を披露しました。自治会（町内）での知人，友達も子供会員は多く，最初ははにかんでいましたが，いざ本番となるとピタリと模範演技も決まり，やって良かったと会員より好評を得ました，しかし，町内の人からも好評でありましたが，ＰＲの割に剣友会員は増えず少子化の波には勝てませんでした。

以上，主な出来事をここに紹介しましたが，いろんな問題も先生方，役員方の話合いの中で処理することが出来，当会の運営にも少しは自信を持てるようになってきました。

剣友会員が常に安心して稽古ができ，ＯＢとなっても心の「ヤングメンの古里」となるよう後援会会員が一丸となって支援し，３０周年へ向け，頑張ろうではありませんか。



指導する谷口会長（9.5.30）

２０年を回顧して

ドリーム剣友会 師範
教士七段 小島甲子治

この２０年間の自分を思い出しながら，パソコンに向かって原稿を打ち込んでいると，つい最近のできごとのように思い出されてきます。

そこで，思い出に残る数々を回顧してみたいと思います。

１　２０年前の創立当時のことについて

1　２０年前の創立当時のことについて

私は，昭和４８年１１月，大正地区子供会剣道同好会創立とともに，大正小学校で剣道を指導していました。当時ドリームハイツの子供達は大正地区子供会剣道同好会に所属していましたので，大正小学校に通っていた子供達の親，黒川さん達が中心になって「ドリームハイツにも剣道部を作りたい，深谷台小学校で剣道を教えてもらえないか。」ということで，ご尽力いただき，昭和５２年４月にドリーム剣道同好会が発足いたしました。私にとって週４日（大正２日，ドリーム２日）の修業が始まったのです。

最初は深谷台小学校の体育館が使えず，床はルノリューム張りの県の集会所で稽古をいたしました。会員は９０名を超えており，ほとんどが初心者ですから木刀での基本稽古は大変危険でした。そんな訳で十分な稽古もできなかったのですが，学校開放の制度化により，昭和５２年７月に現在の深谷台小学校体育館に道場を移したのです。

2　「私と剣道指導」と「剣心とは何か」について

２０年間の中で一番の危機は，なんと言っても，昭和５５年８月から１０月までの師範不在状態の時ではなかったでしょうか。この危機をきっかけに，私はドリーム剣道同好会の師範に要請され，就任したのですが，当時の前会長から「先生はどのような指導をされるのか？」と問われ，「みんなの協力を得ながら，協調してやっていく」とだけ答えたことを覚えています。若い（３３歳）師範の指導に不安を抱いている人にも，私の剣道を著すことで理解をしていただくことを思い立ったのです。

昭和５６年６月には，「私と剣道指導」を，翌年昭和５７年５月には「剣心とは何か」を発表しました。「私と剣道指導」は，私の剣道とはどういうものであったかを振り返って，今後どのように指導していったらよいかを問うものであった。また，「剣心とは何か」は，幕末の剣豪，島田虎之助の残した名言『剣は心なり，心正しかざれば剣亦正しからず，剣を学ばんと欲すれば，先ず心より学ぶべし。』の意義を研究したもので，私がこれまでの剣道指導を通じて日頃から感じている心の研究の成果をまとめたものです。

3　「戸塚区剣道連盟の歴史」について

昭和６２年５月，当会創立１０周年記念誌「剣心」で「戸塚区剣道連盟の歴史」を発表しましたが，これは後に続く後輩のために散逸している資料をあらゆる手段を講じて約１年半の歳月をかけてようやく完成させたのです。

段を講じて約１年半の歳月をかけてようやく完成させたのです。

戸塚区剣道連盟発足当時の昭和３１年４月から昭和６２年までの３１年間の歴史をまとめるため，各支部への問い合わせから，戸塚図書館，県立武道館にも出向くなど資料の収集に「時間と根気」を要しました。特に当時，連盟顧問の故廣瀬一先生をはじめ，諸先生方のご協力により完成されたのです。

４　恩師を迎えて記念大会を開催したことについて

私の武道学園時代の恩師である先生を迎えて，昭和５８年５月の創立六周年記念大会では，範士八段中村伊三郎先生を，昭和６０年５月の創立８周年記念大会では，範士八段森島健男先生を，さらに，昭和６２年５月の創立１０周年記念大会では，範士八段中村伊三郎先生をそれぞれ迎えて創立記念大会を開催できたことは，大きな成果であった思います。両先生は，現在範士九段となられて全日本剣道連盟の審議員として活躍しておられます。実績のない私が自信をもって指導に当たられるのは，両先生から指導を受けたお陰であると思っております。

５　七段昇段と「平常心」について

午前の部が終了し，合格者の発表用紙が張られた。会場内の視線が一斉に発表用紙に向けられた。私の番号は８０６Ｄ……。どうか？

「あった，あった，３番目に確かに８０６Ｄがあった」。喜びがこみあげ，思わず「ヤッター（心の中で）」と手を叩いてしまった。

平成４年５月８日，京都において七段に昇段，４５歳のときであった。３２歳で六段に昇段してから実に１２年半が経過していた。

七段審査に向けての稽古は，月水は，衆議院道場（夕方）で，火金は，職場の

農林水産省（昼休み）と当剣友会（夜）で，日曜日は，当剣友会の日曜稽古，時折大正同好会，住友電工で稽古を積んだ。稽古も，普段の生活も，特に変えることなく「平常心」でいた。３月に七段受審を申し込んでから，合格したいという気持ちが強くなってきたが，審査が近づくに従ってその気持ちは薄れ，「実力を見てもらおう。実力を出し切ろう。」という気持ちに変わっていった。

前日に行われた六段審査会を早朝から夕方の審査終了まで見学し，宿泊旅館から会場までの交通機関もチェックしておいたことから，当日も『平常心』で臨むことができた。高校から剣道を始めてちょうど３０年になるが，『継続は力なり』の言葉がまた実感できたのである。

６　「剣道は友をつくる」について

ドリーム剣友会では，剣道の稽古だけでなく，剣友とともに，ハイキング，合

ドリーム剣友会では，剣道の稽古だけでなく，剣友とともに，ハイキング，合宿，三浦国際市民マラソンの行事に参加したり，シンガポール，上高地，津南，尾瀬ケ原へと旅行したりしました。道場の稽古だけでは，指導が偏りがちになりますが，行事を通じて会員をよりよく知ることができ，指導する見方が幅広くなります。また，意思の疎通が図られることで会の運営もスムースに行われます。

この２０年間，剣道の行事を通じて『友をつくる』ことができたとも言えるでしょう。道場では師範なれど，道場を離れたら，一剣友会員としてこれからも付き合っていきたい。

会員と言えば，近年の会員は，第１に小中学生会員が少なくなったこと。第２に後援会のお母さん方がほとんど働きに出るようになったこと，第３に子供達に我慢強さがなくなってきたことです。

その結果，選手・役員が集まらない，苦痛（痛い，暑い，寒い）に耐えられなく止めてしまうことになってしまいます。厳しすぎると止めてしまうし，緩めすぎれば剣道でなくなってしまいます。どう指導していくか頭を痛めております。

さて，このように数々の思い出を綴ってみると，２０年という歴史の重みを感じます。２０年間の過去を教訓にしながら，今年の標語である「初心忘れず」に，これからもドリーム剣友会発展のために頑張りたいと思います。

私が２０年間，ドリーム剣友会で剣道をやってこれたのも多くの方々に恵まれたことと，家族の協力があったからだと感謝しております。

会員，役員，指導者の三者の研鑽と和によって，次の３０周年に向けて更なる努力を続けていこうではありませんか。

再び剣道を始めて

ドリーム剣友会 師範代
錬士六段　渡部　潤

私がドリーム剣友会の門を叩き，終戦後の長いブランクを経て，再び剣道を始めたのは，同会の１０周年に当たる昭和６２年の２月でした。
その時，既に６５才で，今更激しい剣道をいぶかる人もおりましたが，学生時代の友人の勧めや，私の剣道への愛着もあって決心した次第です。それから，早や１０年の歳月が過ぎました。当初は長い空白をおいての再開のため，最初から始めたつもりで，友人の指導を受けに，うちの稽古とは別に出かけていました。その後はチャンスがあれば，出稽古をしていました。最近は県立武道館の合同稽古に参加して指導を受けたり，時には近くの同好会の道場に伺って稽古をしております。また，子供達の指導にも当たっております。「子は親の背中を見て育つ。」と言われますが，剣道の場合も同じで，指導者の剣風や稽古を子供達はよく見ております。恥ずかしいことですが，子供達に注意したことと，同じことを私が指導を受けている先生や友人から言われることがあります。指導するには，基本のできた正しい剣道を身につけることが肝要だと思います。私は更に精進していく覚悟です。

今迄大きな病気や怪我もせず，その上に多くの素晴らしい剣友，知人に巡り会えたのは剣道のお陰であります。本当に剣道を始めて良かったと思います。唯，残念でならないことが一つあります。それは日吉先生が交通事故で退会し，剣を棄てたことです。再起を祈ります。

創立２０周年を迎えますが，私もまだまだ健康ですので，微力ですが，お世話になっているドリーム剣友会の発展のために努力できればと念じております。

学ぶ

ドリーム剣友会 師範代
五段　　北林　トミ子

ずっとずっと先のことだと思っていたのに月日の過ぎていくのは早いものです。今年４月でドリーム剣友会も２０周年を迎えることができました。

顧みると２０年前は子供達も大勢いて，体育館も割れんばかりの熱気でした。級審査があるとブリヂストン体育館まで貸切りバス２台を連ねて行き，子供達の審査風景に一喜一憂したものです。指導者も初段，二段の先生で現ドリームの小島師範（七段）も当時は３０歳（五段）の若さでした。

役員を兼ねながら美容体操のつもりで始めた私も，四段になった時から指導者の少ない我がドリームで初心者を教えることになり，人に教えることの難しさを痛感しました。人に教えるには自分が学び，稽古して自分が解らないところは先生方に聞きながら，一生懸命頑張りました。

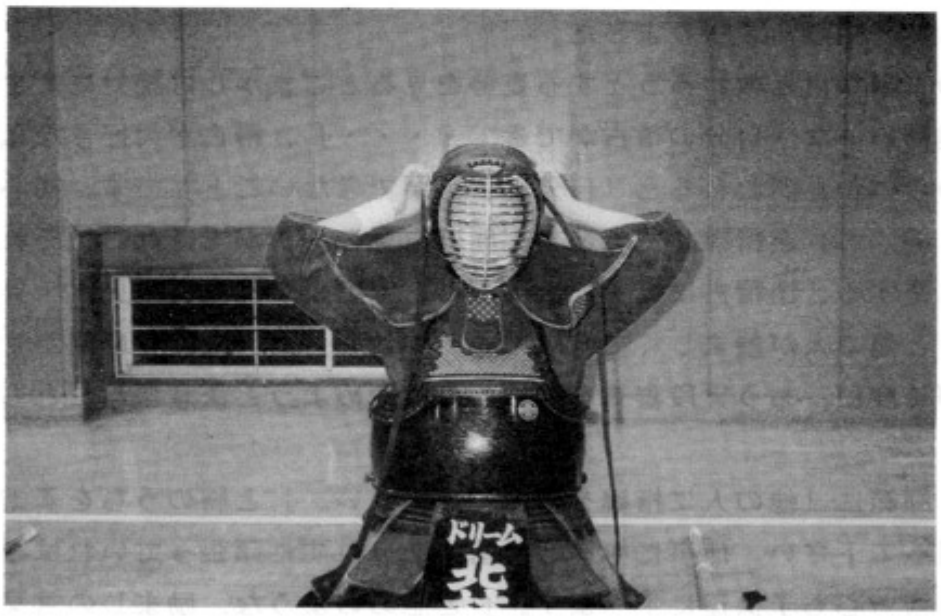
子供達の真剣な目と教わろうとする姿勢を見るとごまかしは絶対にできない。「他の人達はいいな，自分の稽古ができて・・・・」。稽古が大好きな私は剣道で何が一番つらいかと問われると「自分の稽古ができないこと」です。初心者に「イチ，ニ，イチ，ニ」と指導してると半年間は自分の稽古ができない。それを補うには残り稽古をする。出稽古に行くことになる。家庭との両立は？・・・昇段は？・・・と思うと他の人が羨ましくて「平常心，平常心」と自分に言い聞かせながらも審査が近づく度に，もう昇段審査を受けるのはやめようと決意することもありました。

ある日，師範に「他の人に指導を頼んでください。」と胸のうちを暴露すると師範は「頑張って下さい。何事にも初心，基本を忘れずに頑張っていれば必ず昇段できるし，技術も心も子供達に学べます。」と慰めのような，励ましの言葉が返事となり，続けているうちに「教える」と肩肘張らずに「学ぼう」と思うようになると，気持も落ち着き「我以外皆我師」を座右の銘に頑張っています。

今では「今年何人，入会するのかな？」と春４月が楽しみにもなりましたが，折

りからの少子化時代で子供達も減る一方でこれからは大人の時代かな？。自分の稽古はできるものの，淋しいような矛盾した気持ちです。

２０周年，今思えば懐かしいと思えるようになりましたが，大変な歴史の積み重ねでした。諸先生方の一言の励ましにどれだけ勇気づけられた事でしょう。ありがとうございました。ようやく２０周年が迎えられました。これからも師に習い，子供達に学び，出稽古にも行き，更に上を目指して修業したいと思います。そしてその場がそこにあることを本当に幸せだと思っております。



稽古が好きな北林師範代「さあ！！稽古」（9.5.31）

剣友とともに

ドリーム剣友会 指導員
五段　　森谷　誠

ドリーム剣友会２０周年おめでとうございます。ひと口に２０年というのは簡単な事ですが，この間の関係各位の皆様方のご尽力には大変なものがあり，その集大成として２０周年記念行事の施行があると思われます。また今ここに剣友会１０周年記念誌『剣心』があり，それを読み返してみても創立当時から大変なご苦労がしのばれます。

２０年という歳月の重みを感じつつ，剣友会運営の基幹を成して来られた方々にはただ御苦労様でしたと感謝の意を表する次第です。

私が平成元年に小学校２年生の長女と共に入会して早や９年が過ぎ，長女は初段を取って卒業し，現在は中学１年生の次男と一緒に稽古に通っています。

その間，各大会や試合，昇段審査，合宿などたくさんの思い出がありますが，やはり私にとっての一番の思い出は小島師範を始め会長や師範代，会員や役員の方々，また大正同好会や戸塚道場の皆さん大勢の方と知り会えたことでしょう。つまり沢山の剣友ができたと言う事です。もちろん高段者の先生方に対して友達呼ばわりは出来ませんが，先生方も道場から降りて酒席に入れば剣談をはじめ人生論や趣味仕事の話しが尽きませんでした。特に年齢の近い先生方にはまさに剣友と言う名に相応しいお付き合いをさせていただきました。また学生時代の友人も私が剣道を再開したのを聞き付けて自分も始めると宣言し，昇段審査では四段，五段とも一回で合格，今や六段めざして猛練習中とか，港北区代表としてマスターズ大会にも連続出場，たまに会っても話しは剣道の事ばかり。しかしこの友人，学生時代は練習嫌いで有名だった人，一体何があったのか聞いてもニヤリと笑って酒を含むだけ。「六段の審査は一緒に合格してうまい酒を飲もう」と，じんわりと私にプレッシャーをかけてくる始末。昇段審査は二年後，どうなることやら。

それにしても剣道の特色である生涯スポーツという事を痛切に感じる昨今，７０代の現役はあたりまえ，８０代でも矍鑠（かくしゃく）としているという様なスポーツがほかにあ

るでしょうか。　やはりスポーツというよりは「道」というところにその極意があるのでしょうか。もし私が６０代まで剣道を続けたとしたらドリーム剣友会は創立４０周年を迎える事になるわけです。実に素晴らしいですね。私も孫と一緒に稽古に通っているんでしょうか。

とりとめのない話しをして申し訳ありませんが，今回の２０周年を確かな足場として３０周年，さらに４０周年と発展することを願っています。もちろん私も微力ながら剣友会の指導員として，また一人の剣士としても頑張っていくつもりです。そう，剣友とともに。

２０周年記念に寄せて

ドリーム剣友会 指導員
三段　　木村　健一

創立２０周年おめでとうございます。

師範並びに師範代，また後援会役員の皆様方の長い歳月の，御努力と情熱に敬意を表します。

私個人，仕事柄余り協力できないことを残念に思っています。ドリーム剣友会に入会して早や11年も過ぎました。家族で当剣友会にお世話になり，最初は健康が目的で始めた事が，現在では三段になり又，体も丈夫になりました。これは続けなければこの様な事は，なかったと思います。今振り返って見ますと当剣友会の指導方針の中で，年始めの「今年の標語」が毎年ありましたが，特にその中で好きな標語は平成元年の「つづける」という言葉です。「つづける」又は「継続」と言い，”継続は力なり”ともいいますが，まさしくその通りだと思います。

小，中学生の皆さん，何か一つの事(勉強でも，運動でも，趣味でも)を途中での苦しい事を乗り越えて，長い年月継続していけば，必ず自分自身のためになると確信しています。また，ドリーム剣友会も３０，４０年と続けていくことと思います。

お父さん剣士の夢

お父さん剣士の夢

ドリーム剣友会 指導員
三段　　谷口　庄一

28才の時，腰を痛めてしまい，椎間板ヘルニアの大手術をしました。腰椎の３．４．５番の骨を１個に固定し腰はもう曲がりません。10年間はスポーツ観賞で過ごしました。腰の痛みもいくぶん消え，歩行姿勢の矯正をしたい一心で，37才から剣道の素振りを始めて早や１５年が経ち，依然として歩行姿勢は完治していませんが，友人から少しは良くなっているといわれるようになってきました。始めたばかりの稽古の苦しさは自分にとっては物事に例えようのない苦しさであり，「ハーハーフーフー」の連続で「声出しても，顎出すな。」と言われるのですが「顎出しても，声は出ず。」の状態です。もう止めようと思ったことが何回もありましたが，入会した同期生（小１～３年生）の頑張る姿に励まされ，「退会しますとは・・・・」苦しくても言えませんでした。

その苦しさにも徐々に慣れ，「面を取った後のさわやかな気分とビールの旨さ」に，つい稽古が楽しみへと変わってきました。また稽古で腹筋，背筋等が鍛えられ腰も良くなり昔の谷口さんとは想像もつかないと言われております。段なんて私には関係ないと思っていました。しかし，いざ有段者になると欲が出てきて，上の段が欲しくもなり，つい稽古にも熱が入ります。中年として習い始めた剣道が，今では一剣士として区民大会，社内大会，実業団大会等に出場しております。勝ち負けは二の次で，各大会で剣を交えて多くの友人を得ることがまた楽しみですし，お互いの稽古の成果を認め合うのも，そして剣道談義に花を咲かせながら一杯飲むのがこれまた楽しみです。

試合に勝ちたい気持ちも最近は薄れ，今では「打って下さい。私も全身全霊をかけて打たせて頂きます。」こんな剣道がしたいと思える様になって来ました。真剣に稽古すれば，物事（物事の道理が）が自然に見えて来る。稽古すれば強くなる。いや真剣に稽古すれば強くなることを信じて稽古しています。竹刀を介しての「心と心とのぶつかりあい」，「身体と身体のぶつかりあい」の剣道妙味の中で，もう一歩人より稽古を多く積み，「攻め勝って打つ」，「相手（人）の心を打てる剣道」へと。　また剣先で心のやりとり（会話が）が出来るようになりたい。より一層の

基本技の修錬が重要視される剣道の道程において，今ようやくにして入門の扉を叩

基本技の修錬が重要視される剣道の道程において，今ようやくにして入門の扉を叩いたようなものであり，チャンバラ剣道から脱皮するのに私にとってはまだどれくらいの時間が要するかも知れませんが，剣を交える度に友を得て，心を豊かにし，最後は「相手の心を打つ」剣道をすることが私の夢です。

剣道と交通事故

ドリーム剣友会 指導員
三段　　奥山　朝子

ドリーム剣友会２０周年おめでとうございます。

当会発足と同時に，息子が小学校入学と共に私も入会し，２０周年を一緒に迎えることができてとてもうれしく思います。これも小島先生，渡部先生，北林さん，谷口会長そして子供達，父母役員さんの御協力があってのことだと思います。

この２０年を振り返ってみると，いろいろな事がありました。私は楽天家のせいか楽しい事ばかり思い出します。夏の合宿，ハイキング，納会，鏡開き，豆まき，部内試合とても普通の主婦では経験出来ないことばかりです。これも剣道のおかげです。　ところで平成２年１２月に悲しい事もありました。交通事故で「首の靭帯を損傷し手術が必要なことと，結果によっては二度と剣道が出来ないこともある。」と，お医者さんに言われた時は悲しくて涙が止まりませんでした。入院生活，３か月そして退院後の通院治療１０か月が経ち，いろんな検査の結果，また剣道を始めて良いとお医者さんに言われた時にはビックリ。剣道の稽古で首の骨が強くなっていることで，お医者さんがとても感心し驚いていました。病気やケガをして健康の素晴らしさ，そして家族，友達，剣道の仲間達の思いやりや，やさしさがこんなにうれしかったことが今迄生きてきて経験した事がありませんでした。これからも３０周年を目標に頑張ります。

歴代役員のお母さん方へ感謝

ドリーム剣友会 会員
三段　明生　誠一

地域社会に根ざしたスポーツ活動「ドリーム剣友会」が社会情勢や子供達のおかれた実態に果敢に挑戦して，ここに２０年の足跡を残してきました。

お金さえ出せば各種スポーツ教室が利用できるこの頃，この手作り運営の「ドリーム剣友会」の貴重な体験は子供達の成長の糧になっていると信じます。

最近，主婦の会員が増え，親子共同の体験の場となり，地域の大人たちが子供たちの成長を温かく見守りつつ，時には厳しく鍛える場ともなっています。さらに，役員のお母さん方が側面から会運営に参加し，主婦感覚を生かし手作り運営がなされてきています。ややもすれば古いしきたりに違和感を持つ若い親達との融和が心がけられています。歴代役員のお母さん方へ感謝の気持ちで一杯です。

さて，今後ますます子供達の実態に応じ，学校外活動の利点．創意工夫した特色のある活動と多様で魅力ある機会提供が期待されています。一方，学校生活に追いまくられ疲れてため息をつく子供達に，言われた通りに従うロボットのような鎧を脱ぎすてて生きていると実感を肌で感じられる場を創り出してやりたいものです。

私達大人会員にとって，同じ目的．趣味によって結びついた「剣友会」の活動が活発に展開され，また，異世代間の交流の場となり心身のリフレッシュが図られることが一番の喜びです。

私達会員一同，次の１０年を展望しつつ，明日からその一歩の出発です。

江ノ島ハイキング（5. 5. 16）